

各士業団体や企業、団体等でトレーナーを務める著者が、
「もめごとの解決技術」をわかりやすく解説!

聴く力 伝える技術

人間関係の誤解を解く
メディエーションの極意

NPO法人 日本メディエーションセンター 代表理事
JMC研究所 所長
田中圭子 著

2012年7月刊 A5判 292頁 定価2,520円→**特価2,270円**(税込)

田中圭子 (たなか・けいこ)

NPO法人日本メディエーションセンター代表理事
JMC研究所 所長
家事調停委員
消費生活アドバイザー、消費生活専門相談員、産業カウンセラーの資格を有する。
同 NPO 法人主催の講座、裁判所、司法書士会、行政書士会、土地家屋調査士会、社会保険労務士会、企業や行政、団体のメディエーション・相談・トレーニング等のトレーナーを務める。

メディエーションとは?

中立的で公平な第三者(メディエーター)の助けを受けながら、当事者同士が合意点を見つけていくこと。両者が満足できることが大事なポイント。

メディエーターの役割

当事者同士がコミュニケーションを取ることを、話し合いの中でアイデアを出しあうことを助ける。構造的な助けを提供するとともに、当事者が対立やもめごとを扱っていくことを助ける。

- 対立する人同士の間にもめごとを解決したい
- 相談者に納得してもらえるような説明をしたい
- 対話の基本や本質を学びたい

このような場合に
本書の内容が
有効です!

- もめごとやトラブルが起きたときに、お互いの事情や感情のすれ違いを1つずつ確認し、話し合いに導く技術をわかりやすく解説。
 - ・メディエーションを7つのステージに分け、詳細に説明。
 - 両方の当事者がそろった状態ではなく、片方の当事者との最初のコンタクトを1つめのステージとして設定。
 - ・メディエーション終了後のメディエーターへのフォローアップ体制「スーパービジョン」についても紹介。
 - 「スーパービジョン」の持つ3つの機能や、種類について丁寧に解説。
- イメージがわかりやすい、身近で具体的な事例を中心に収録。
 - ・離婚後の元夫(病院理事長・院長)と元妻(病院理事)の病院経営をめぐるいざこざ(※コンサルタント協同組合より提供された実例)
 - ・課長補佐の男性と派遣社員の女性の「お茶くみ」をきっかけにしたギクシャク
 - ・姑と息子夫婦の「孫の七五三」をきっかけにしたギクシャク
- いじめ問題の対応策の一つとして、有効な方法となりうる「ピアメディエーション」についても、事例を掲げて解説。
 - ・事例：高校2年生男子生徒同士の「待ち合わせに遅刻」をめぐるケンカ
- 騒音をめぐる近隣紛争を解決する、イギリスのトレーニングビデオの事例も紹介。
- 話す相手への相槌の打ち方、質問のしかたなど、日々の相談業務の参考となる技術も解説。

「調停人は何をすればよいのか？」
初任者向けにわかりやすく丁寧に解説。

解説 同席調停

その流れと技法

模擬調停DVD付「真実はどこに—歯医者と患者の食い違い」

レビン小林久子 著
2011年3月刊 A5判 箱入 128頁
定価4,095円→**特価3,690円**

レビン小林久子 (れびんこばやしひさこ)

九州大学大学院法学研究院教授、九州大学大学院法学研究院
附属紛争管理研究センター長。九州大学法科大学院教授。紛争
管理と調停技法を専門分野とする。

- 押さえておくべき基本理念、用語、準備について、わかりやすく解説。
- 話し合いのスタートから和解の成立まで、調停の進め方を流れに沿って解説。

「こんなはずではなかった」と当事者を落胆させないために
重要な「初めの言葉」

双方の要求を満たす解決策を見つけるための「状況の把握」

話し合いの方向づけ

敵対から協調への関係性の転換

お互いのニーズを伝え合い、解決策を出し合うコミュニケーション

合意の確認と合意書の作成

- 付属のDVDにより、本書で解説している概要や手順が実際にどう活用されているかを「見ながら」学習可能。

調停のイロハをすべて網羅した、
調停実務のバイブル。

調停のプロセス

紛争解決に向けた
実践的戦略

レビン小林久子 訳・編
クリストファー・W・ムーア 著
2008年3月刊 A5判 520頁
定価4,410円→**特価3,970円**

- 様々な紛争解決に対応できる、実践的な方法を解説。
- 「調停・紛争解決プロセスの全体像理解」
「調停に臨むための準備」
「調停手法の実践」
「調停の終了と解決方法」
を、具体的に明示。

現代調停を実践するための
スキルと理念を学ぶ。

紛争管理と現代調停のためのトレーニング書

調停への誘い

レビン小林久子 著
2004年7月刊 A4判 124頁
定価2,100円→**特価1,890円**

- スキルと理念を7段階に分け、場面ごとのポイントを学習可能。
 - 1 代替的紛争解決方法について
(ADRの十分な理解のための議論)
 - 2 紛争観について
(紛争を社会的現象としてとらえ、複数の解決方法について比較検討)
 - 3 紛争の理解
(紛争の構成要素について一つひとつ解説)
 - 4 調停のスキル
(「何故そのようなスキルを使うのか」を確実に理解するために)
 - 5 調停の用語
(当事者の話を分析するための調停用語について解説)
 - 6 調停実施
(今まで学んだ全プロセスを総合的にとらえるためのロールプレイ)
 - 7 和解について
(調停を完全に終える前に、もう一度、プロセスを振り返ることが重要)
- 図表を多く取り入れ、視覚的にも理解を助けるよう工夫。
- 必要なスキルを「どのような状況で、どう使うか。」について順を追って学習可能。